

## IV 新しい法曹養成プロセスと実務・臨床科目の今後

早稲田大学大学院法務研究科教授  
内田 義厚

### 第1. はじめに

2022年度は、日本における法曹養成プロセスの大きな転換点になる年である。すなわち、法学部入学後3年後から法科大学院に入学することが可能になり、また、法科大学院の課程修了後に司法試験を受験し、合格後に司法修習生として採用されて司法修習を受けるという制度から、法科大学院在学中、具体的には、法律学の既修者として法科大学院に入学した者が所定の単位を取得すれば、入学から約1年後に司法試験を受験でき、合格した場合は法科大学院の課程が修了したことを条件に司法修習生に採用されるという制度への転換である。そして、この新たなシステムの適用を受ける学生が、2022年4月から法科大学院に入学し、新たな制度がスタートした。そこで本報告では、まず、かかる変革に伴うカリキュラム変革の概要及び、それが実務・臨床科目教育にどのような影響を与えるか、そのメリット・デメリットを整理・検討し、それを踏まえて、今後のあるべき姿について報告者の見解を明らかにすることとしたい。なお、報告者は早稲田大学の法科大学院に属する教員であるが、この報告で意見として述べることは、あくまで報

告者個人の見解であり、早稲田大学法科大学院の考え方とは無関係であることを最初にお断りしておきたい。

### 第2. 新制度による法曹養成プロセス

#### 1. 法曹コース及び法科大学院による「3+2」システム

法曹を目指す学生は、大学の法学部に進学した場合、そこに設置された「法曹コース（課程）」を選択し、最短で学部3年修了時に学部及び法曹コースを卒業し<sup>1</sup>、更に試験などを経て法科大学院に入学する。そして、法科大学院入学時に既修者認定を受けた場合は、法科大学院で2年間学修することとなるが<sup>2</sup>、その2年目在学中（7月）に、受験のために必要とされる単位を取得すれば、司法試験を受験することが可能になる。そして、法科大学院在学中に司法試験に合格した場合は、その後法科大学院を修了した後、司法修習生として採用されることになる<sup>3</sup>。このような、学部での3年間と法科大学院での2年間の一貫教育による法曹養成課程を「3+2」システムと称している。

#### 2. 早稲田大学での「3+2」システム

2020年4月1日から、法学部に「法曹

1 3年次で学部を卒業せず、4年で学部卒業した後に法科大学院に入学することも可能。

2 法学未修者の就学期間は3年である。以下では、既修入学者1年目を「2年次」、2年目を「3年次」とする。

3 司法修習期間は1年である。したがって、大学入学時から最短で6年間で法曹資格を取得することが可能になる。

コース」を設置し、法学部の通常のカリキュラムのほか、いわゆる法律基本科目（憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法・行政法）について、法科大学院進学を意識した科目を設置し、これら科目での成績評価に基づき、法科大学院への入学を認めている。また、法科大学院を設置していない他大学と法曹養成連携協定を締結し、その大学からの入学も認めている。その他、筆記試験等による一般選抜を通じての入学も認めている。

そして、2年次は、司法試験が翌年の7月に控えていること、同年次での履修上限単位数の制限などから、司法試験の受験科目となっている上記法律基本科目及び選択科目（労働法、倒産法、経済法等。以下「法律基本科目等」という。）の履修に専念する形となっている<sup>4</sup>。そして、3年次後半(秋学期)は、主として実務基礎系科目及び展開先端科目の履修に充てられることになる。

### 第3. 「3 + 2」システムのメリットとデメリット

このような「3 + 2」のシステムは、実務・臨床科目の充実という観点からは、メリットも多くあると考えられる。すなわち、これまでの法科大学院においては、かかる実務・臨床系科目と法律基本科目とが同時並行的に履修することが求められており、法律基本科目等の学修が法科大学院入学前にある程度進んでいた学生にとってはメ

リットが大きかったが、法律基本科目の学修が必ずしも十分でない学生にとっては、いわばどっちつかずの状態になってしまったり、あるいは法律基本科目等の履修に重点を置く形になって、実務・臨床系科目は必要最小限の科目しか選択しないという問題点もあったように思われる。また、法科大学院修了後に司法試験を受験するというシステムの場合、在学中はともすれば試験準備に軸足を置きがちになることは否めないところであり、その点からも、実務・臨床系科目に力を注ぐことをしない、あるいはできないといった問題点もあったように思われる<sup>5</sup>。

これに対し、「3 + 2」システムの場合、3年次後半は、法律基本科目等の履修や司法試験準備にとられることなく、実務・臨床系科目の履修に専念できることになり、学生にとっても教員にとってもメリットが大きいように思われる。また、司法試験合格後及び法科大学院修了後の司法修習への円滑な橋渡しが可能になるという点でもメリットが大きいように思われる。

もっとも、このようなメリットに対しては、実務・臨床系科目を配当できる期間が3年次後半に限られてしまい、この期間に多数の科目が集中的に開講されるため、学生にとってはかえって窮屈な事態になってしまうのではないかと、2年次に法律基本科目等のみの履修が1年続くことは、実務・臨床系科目と法律基本科目等との連関を見失わせることにつながり、理論と実務の架

4 3年次前半は、クォーターで履修が修了する科目を多く配置している。必修科目として、民事訴訟実務の基礎及び刑事訴訟実務の基礎の前半部分並びに法曹倫理をここに配置している。これに関する問題点ないし課題については後述する。

5 一例であるが、民事・刑事模擬裁判は、履修者の負担が大きく、法律基本科目等の履修に支障が生じるということから学生から敬遠されがちであったといえる。

橋を目指した法科大学院教育の理念との関係で問題があるのではという指摘も考えられるところである。そこで、今後の課題を考えるにあたっては、これらデメリットを極力除去しつつ、「3+2」システムのメリットを生かしていく方向が望ましいと考えられる。以下、具体的に述べる。

## 第4. 若干の提言

### 1. 学部段階での実務・臨床系科目の設置等

「3+2」システムのメリットを生かすには、学部入学後のできるだけ早期に、実務・臨床系科目を設置していくことが考えられる。この点、早稲田においては、学部1年次に現役の法曹三者によるオムニバス形式の講義である「法曹の仕事を知る」という科目が置かれており、多数の学部生が受講している。また、裁判官・弁護士の実務経験を有する教員が担当する「法曹演習」という科目も多く、多くの学部生が受講しており、これら講義を受講したことをきっかけに法曹コースや法科大学院への進学を意識したという学生も多い。今後も、この種の科目の整備拡充を図っていくべきであろう。

### 2. 法科大学院での実務基礎教育

前述のとおり、法曹コースから法科大学院に入学した学生は、1年余りは法律基本科目等以外の科目の履修ができない状況におかれている。司法試験の在学中受験ということを考えれば、ある程度やむを得ない

ともいえるが、法曹倫理及び民事・刑事の実務の基礎的事項がこの時期に学修できないのは問題ではないかと考える<sup>6</sup>。この点、法科大学院における2年次の履修単位上限が窮屈になっていることも一因となっていることから、履修単位上限の緩和が望まれる。

### 3. 修習準備教育と幅広い視野を獲得するための教育の両立

司法試験受験後の3年次後半の教育は、来るべき司法修習に向けての準備的教育と、法曹としての今後を考えるための視野を広げる教育との両立が重要になる。前者については、司法修習を担当する司法研修所との連携を密にし、どの分野についてどのような役割を担うのかについて、双方が意見交換するなどして具体的に検討していくことが望まれる。後者については、現在の展開先端科目をより充実させることが考えられるが、学生に幅広く履修の機会を与えるような配慮（たとえば、クォーターでの開講科目の増加）が望まれる。また、これとは逆に、クリニック等の臨床科目については、学生にじっくり問題点に取り組ませることができることを利用した試みが拡充することが望ましいといえる。これについては、早稲田大学では、法科大学院教員の指導による学生の課外の活動として、東日本大震災の復興支援クリニックが継続的に活動しており、このような取組みが今後様々な分野で拡充することが望ましい。また、法律事務所や官庁、民間企業での研修

6 現在のカリキュラムでは、法曹倫理及び民事・刑事の実務基礎が3年次前半のクォーターに集中する形になっており、かなり窮屈なカリキュラムになってしまっている。

を内容とするエクスターンシップについても、現在よりも長期間にわたるものを開講・実施することも考えられよう。

## 第5. まとめ

「3+2」システムの下でも、実務・臨床系科目は、学部・法科大学院及び司法修習という法曹養成一貫教育システムのバックボーンを形成する重要な科目として位置付けられる。その理想形を要約すれば、学部段階では法曹の仕事の実際とその魅力、そして法的思考の基礎基本を伝える教育、法科大学院では実務教育の基礎的部分と幅広い視野の獲得の両輪を意識した教育、司法修習はそれらの総仕上げ教育という位置づけになるのではないかとと思われる。